

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390102525		
法人名	株式会社PLUNERSE		
事業所名	グループホームCruto		
所在地	熊本県熊本市南区城南町東阿高一ノ尾1279-1		
自己評価作成日	令和5年 2月 7日	評価結果市町村報告日	令和5年 4月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和5年2月 21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

訪問看護が本部にあるため他事業所に比べると看護との連携、医療面は強く、医療依存度・介護度が高いかたでも安心して暮らせるようにサポート体制が整っていること。また地域の医院との連携もとれており看取りの実績もある。中庭もあり、四季折々の花壇を作成して観覧ができるようにしている。また、畑を作成しており苗植えから成長の過程を鑑賞し、収穫して食材として利用もしている。この一連の流れも生活リハビリの一環として取り入れている。クルトが楽しみという法人の理念があり、入居者の皆様には施設に入居したから今までの趣味などができないことがないように多職種と連携して実現できるように検討会などを実施している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

訪問看護を本部事業としている事業所では、介護度や医療依存度が高い方の受入れもっており、介護度や入居者それぞれの状態が幅広い状態である様子がうかがえました。お一人おひとりの状態が異なる中、それぞれへのケアについて職員間で話し合いを重ね、試行から評価が繰り返されています。開設以来、地域との関わり作りに取り組んでこられたことも実り、地域包括支援センターとの連携のもと広がってきていることも確認できました。入居者の日々の生活は自由に入居できる中庭も活かされ、野菜作りやレクリエーション等で日々の楽しみになっています。入居後も趣味を続ける入居者もおられ、お一人おひとりの生活の継続も支援する様子がありました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の入れ替わりあり適宜理念の共有を図る	職員入職時にはそれぞれオリエンテーションを利用し管理者より理念の説明をしている。	今年も職員の入替りもあり、都度理念の共有に向けた説明をされている様子が聞かれました。今後は共有・実践に繋がる定期的な振返りの機会作りに期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナにより地域との交流は利用者全員はできていない。初詣は一部の入居者が参加	開設間もなくからのコロナ禍で、入居者と地域の関わり作りは難しい状況が続いている。現在では地域のスーパー等からの移動販売車受入れや地域の神社への初詣、地域の小学校での研修参加等、少しずつではあるが交流が広がって来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	サロン活動や地域の小学校に出向き認知症サポート研修に参加している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年末に一回だけ実施した。その他の月はコロナ感染予防のため資料郵送のみの取り組み。日常的に家族へは連絡をとりあっている	感染症リスクレベルにより開催の検討を行っている。運営推進会議メンバーである地域包括支援センターより情報を頂いたり協力関係を築き、事業所の取組みを広げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	積極的に取り組みを報告はしていない。	市担当部署とは日頃の報告・連絡・相談等により協力関係の構築に努めている。地域包括支援センターとの協力により、地域他事業所との連絡会への参加や地域との関わりが広がっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は実施しているが職員はなぜ施錠しているのか把握している。身体拘束実施している際は毎週金曜日にカンファレンスを実施し、必要性の確認を行ってきた。	身体拘束に関する勉強会を3ヶ月に1回行っている。身体拘束をしないケアを基本としているが、入居者の状態により必要とされる際は毎週話し合いを重ね、対応を都度検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	三か月に一回の身体拘束、虐待予防(防止)にかんして勉強会を実施。また、言葉の拘束などがいないか注意をしている。		

グループホームCruto

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	出来ていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必要時は書面や電話連絡にて対応を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ感染予防のため定期的な家族との交流や情報を共有する場を設けていない。	感染症リスクレベルを考慮しながらできるだけ面会の受け入れ方法を検討している。遠方の家族には通信アプリを利用して写真を送り、入居者の様子を伝えており、家族への連絡の際には家族に意見や要望を聞く機会としている。家族アンケートでも職員から家族へ声掛けしている様子がうかがえる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1on1ミーティングを取り入れ意見や情報共有を行っている。	職員は日頃より管理者へ提案や意見を述べる機会を持つ他、毎週のスタッフミーティングでも意見や提案を述べる場を持っている。法人では働きやすい環境作りに取り組んでおり、職員のメンタル面を考慮し、管理者との1on1ミーティングを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年度も賞与二回支給。労働環境も改善し年間休日を106日から110日へ変更。労働者の働きやすい環境を今後も改善していく。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護技術向上のため市からの研修案内やグループホーム協会からの研修案内には積極的に参加できるように勤務調整など柔軟な対応をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南区のグループホーム・認知症デイサービスの合同会議に参加して勉強会や活動報告の共有を図り質の向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のヒアリングを大切にしている。生活歴や趣味、特技を聞き施設でも継続して出来る事ように検討している。家族とも情報共有を密に行って安心と信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のヒアリング時に利用者と家族へは要望や不安・不明点などないか十分に連絡をとりあい関係性を大切にしている。定期的に連絡や写真を送り対応している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ヒアリング時に情報を収集し優先順位を確認している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の状態に合わせたケアの提供に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との関係性を維持できるように言葉かけから行動を行うようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染予防のため、窓越しの面会で対応を行い関係性を維持できるように対応している。	感染予防のため、気軽な来訪受入れは難しい状況が続いているため、家族との関係が希薄にならないよう支援している。ドライブで入居者に馴染みのある地域へ紅葉見学ドライブに行った。	感染症対策が必要な時期が続きますが、入居者の馴染みの人との関わりや馴染みの場所へのドライブ等、支援の取組みに期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性を把握しておりトラブルが起きないように対応している。利用者同士の関わりについてはレクリエーションやイベント時に支え合えるように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	認知症状の悪化により医療保護入院とられた。定期的に相談員へ状況確認を行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思表示ができる方には意向に沿えるように努めている。	現状、意思表示ができる入居者は三分の一ほどおられ、日頃の言葉や表情等により把握している。意思表示が難しい入居者には日々の観察により思いや意向の把握をしており、家族の意見も参考にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	既存の入居者様はカルテなどをみて把握している。新規の方々が入居前ヒアリング時に情報を聞き出しスタッフ全員で共有している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々お一人お一人の観察を実施し現状の把握に努めている。状態変化などあれば職員間で情報共有をしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	コロナにより担当者会議などが開催できていないが家族の要望などは電話連絡で伺い、課題とケアのあり方については職員よりモニタリングを実施し現状把握した上で介護計画を作成している。	ケアに関するカンファレンスは毎週会議を行い、入居者の課題や必要事項の共有を行っている。入居者の状況によって必要であれば介護計画の見直しへ繋げる。介護計画の見直しは半年に1回を基本としている。入居者の状態によりケアの試行・評価を繰り返し行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ミーティングや申し送りで職員と情報共有して計画の見直しできている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時その時の体調の変化や認知面の悪化により対応の変化が生じても柔軟な対応ができるように心掛けている。		

グループホームCruto

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染予防のため外出などは困難な状況であるができることは対応している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医がある場合は優先している。近くにない場合は家族へ説明して納得を得てから主治医へなっただけよう双方に配慮をおこなっている。状態変化時は適宜病院へ相談し関係性を大切にしている。	入居以前からのかかりつけ医の継続した受診を支援している。地域からの入居者も多いため協力医がかかりつけ医である方も多い。協力医からは月2回の往診がある。専門医等の受診が必要な際には家族の付き添いを依頼している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	些細なことでも看護師へ報告体制を整えている。訪問看護が介入している入居者へは訪問看護師へ先日の状況や状態を報告し情報共有を図り支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、定期的に入院先である相談員へ状態観察の連絡を入れ情報共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態に変化がありそうな場合、または変化時には主治医へ連絡できるような体制づくりと家族へ連絡を入れ関係性を維持している。また、年に一回事前意思表示を家族へ確認のお願いをして今後の方針などの確認を行っている。	入居時に重度化や終末期に向けた事業所の方針を説明している。事業所では看護師資格を持つ職員もおり本部には訪問看護部門もあり、医療依存度・介護度の高い方も受け入れている。看取りを行った際には心理士による職員面談も受けられる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時マニュアルを作成、各入居者のベッド上に急変時の対応を記載しシミュレーションを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内での研修は実施しているが地域との交流体制はできていない。	災害及び避難訓練を行っている。コロナ禍であることから地域との協力体制構築が難しい状況が続いていることを課題としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	現場での接遇の問題が時折ある。その都度、当事者には注意をしている。定期的に行っていく。	職員の接遇・言葉遣い等について気になる場面が見られた際には都度職員間で注意している。新しい職員を迎えた際には身体介護の対応を管理者が指導する。	身体拘束等に関する研修は定期的に行われていますが、生活の場面における接遇や言葉遣い等、入居者に関わる対応を振り返り、職員間で共有する機会作りに期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けし実施している。希望に添えているかは不明だが努力はしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合の時もあるが事前に本人に希望を聞いて対応している。無理のない生活を送ってもらえるよう考慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時等、着替えを選べる方には選んでもらう支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お誕生日会など、好きな食べ物をきいて提供している。下膳の手伝いや食器洗いなど一緒に片付けをしている。	2ユニットの中央に位置する台所で職員による手作りの食事を提供している。献立は入居者の好みや希望も取入れ調理スタッフがたてている。入居者は台拭き、配膳、下膳等に関わる姿が見られる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の状態に応じて提供するものを臨機応変に提供できるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	実施している。毎週歯科医の往診があるため、情報共有をしたりアドバイスももらっている。		

グループホームCruto

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツの使用枚数に関しては見直しを定期的に実施している。入居者への不快な思いから家族へのコスト面などには配慮している。	できるだけトイレでの排泄が継続するよう支援している。パット等の使用量は毎月確認把握しており、使用量が増えている時には話合う機会を持ち対応を検討している。排泄に関する話合いは随時行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便困難は方には、家族へも相談し内服だけに頼らず、食物繊維を豊富に提供できるように食事の工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日はきまってはいるが本人の体調や気分によって沿って曜日を変更したりと臨機応変に対応している。	週2回以上の入浴を基本としている。浴室は機械浴とベッド式の2か所あり、入居者の身体状況によって使い分けている。入浴の際はできるだけ本人の持つ力を大切にし、見守りを主とする入居者もおられる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状態観察を常に行っているため傾眠があればベッド臥床して対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が誰がなんの薬を内服しているのか理解はしていない。課題になる。看護師が中心に把握はしているが介護職も知識と理解が必要。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日のレクリエーションの工夫や個々の趣味などを活かした時間、ケアが提供できるようにモニタリングして情報共有している。また月々のイベント等を開催して喜び、楽しみを提供できるように努力している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	外出はなかなかできていない。中庭は常に開放している。希望時は付き添いを実施している。今後暖かくなれば計画を立てる予定	安全に配慮され自由に出入りできる中庭では入居者のアドバイス等もあり、野菜が栽培されている。お世話等で外に出る入居者の姿がある他、キャッチボールやパットゴルフを楽しむ入居者の姿もある。希望があれば事業所周辺の散歩にも付き添っている。寒い時期には中庭を眺めながら廊下を歩く姿も見られる。	

グループホームCruto

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は施設管理している。また、入居者からの預かり金はない。コロナ感染予防のため外出は控えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があればすぐ対応している。手紙やはがきも希望時は家族へ確認後記載、郵送している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとにカレンダーから今宵がわかるように作成している。また、飾り物などで季節が理解できるように工夫している。	中庭を眺めることができる明るく外の景色を感じることもできる共用空間では、日中入居者が過ごすことも多い。入居者同士が穏やかに過ごせるよう配慮した席を試行している。2ユニットの共有空間は台所をはさみ見渡すことができ、互いに自由に行き来する姿もある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間に関しては自由に生活ができるようにソファや椅子を設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な生活の延長として各居室にはそれぞれ持ち込んだ私物で囲まれた環境を提供している。畳の持ち込みから座椅子などレイアウトしている。	居室には洗面台が完備されている。入居時には使い慣れた生活用品等の持ち込みを依頼し家族にも協力頂いている。テレビやラジオ、趣味の品々や道具等の持ち込みも見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自由に生活ができるように支援・援助を最大限に提供している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の入れ替わりあり適宜理念の共有を図る		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナにより地域との交流は利用者全員はできていない。初詣は一部の入居者が参加		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	サロン活動や地域の小学校に出向き認知症サポート研修に参加している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年末に一回だけ実施した。その他の月はコロナ感染予防のため資料郵送のみの取り組み。日常的に家族へは連絡をとりあっている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	積極的に取り組みを報告はしていない。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は実施しているが職員はなぜ施錠しているのか把握している。身体拘束実施している際は毎週金曜日にカンファレンスを実施し、必要性の確認を行ってきた。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	三か月に一回の身体拘束、虐待予防(防止)にかんして勉強会を実施。また、言葉の拘束などがいないか注意をしている。		

グループホームCruto

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	出来ていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必要時は書面や電話連絡にて対応を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ感染予防のため定期的な家族との交流や情報を共有する場を設けていない。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1ON1ミーティングを取り入れ意見や情報共有を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年度も賞与二回支給。労働環境も改善し年間休日を106日から110日へ変更。労働者の働きやすい環境を今後も改善していく。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護技術向上のため市からの研修案内やグループホーム協会からの研修案内には積極的に参加できるように勤務調整など柔軟な対応をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南区のグループホーム・認知症デイサービスの合同会議に参加して勉強会や活動報告の共有を図り質の向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のヒアリングを大切にしている。生活歴や趣味、特技を聞き施設でも継続して出来る事ように検討している。家族とも情報共有を密に行って安心と信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のヒアリング時に利用者と家族へは要望や不安・不明点などないか十分に連絡をとりあい関係性を大切にしている。定期的に連絡や写真を送り対応している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ヒアリング時に情報を収集し優先順位を確認している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の状態に合わせたケアの提供に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との関係性を維持できるように言葉かけから行動を行うようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染予防のため、窓越しの面会で対応を行い関係性を維持できるように対応している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性を把握しておりトラブルが起きないように対応している。利用者同士の関わりについてはレクリエーションやイベント時に支えあえるように支援している		

グループホームCruto

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	認知症状の悪化により医療保護入院とられた。定期的に相談員へ状況確認を行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思表示ができる方には意向に沿えるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	既存の入居者様はカルテなどをみて把握している。新規の方々が入居前ヒアリング時に情報を聞き出しスタッフ全員で共有している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々お一人お一人の観察を実施し現状の把握に努めている。状態変化などあれば職員間で情報共有をしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	コロナにより担当者会議などが開催できていないが家族の要望などは電話連絡で伺い、課題とケアのあり方については職員よりモニタリングを実施し現状把握した上で介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ミーティングや申し送りで職員と情報共有して計画の見直しできている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時その時の体調の変化や認知面の悪化により対応の変化が生じても柔軟な対応ができるように心掛けている。		

グループホームCruto

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染予防のため外出などは困難な状況であるができることは対応している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医がある場合は優先している。近くにない場合は家族へ説明して納得を得てから主治医へなっただくよう双方に配慮をおこなっている。状態変化時は適宜病院へ相談し関係性を大切にしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	些細なことでも看護師へ報告体制を整えている。訪問看護が介入している入居者へは訪問看護師へ先日の状況や状態を報告し情報共有を図り支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、定期的に入院先である相談員へ状態観察の連絡を入れ情報共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態に変化がありそうな場合、または変化時には主治医へ連絡できるような体制づくりと家族へ連絡を入れ関係性を維持している。また、年に一回事前意思表示を家族へ確認のお願いをして今後の方針などの確認を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時マニュアルを作成、各入居者のベッド上に急変時の対応を記載しシミュレーションを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内での研修は実施しているが地域との交流体制はできていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	現場での接遇の問題が時折ある。その都度、当事者には注意をしている。定期的に行っていく。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けし実施している。希望に添えているかは不明だが努力はしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合の時もあるが事前に本人に希望を聞いて対応している。無理のない生活を送ってもらえるよう考慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時等、着替えを選べる方には選んでもらう支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お誕生日会など、好きな食べ物をきいて提供している。下膳の手伝いや食器洗いなど一緒に片付けをしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の状態に応じて提供するものを臨機応変に提供できるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	実施している。毎週歯科医の往診があるため、情報共有をしたりアドバイスをもらっている。		

グループホームCruto

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツの使用枚数に関しては見直しを定期的実施している。入居者への不快な思いから家族へのコスト面などには配慮している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便困難は方には、家族へも相談し内服だけに頼らず、食物繊維を豊富に提供できるように食事の工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日はきまってはいるが本人の体調や気分に合わせて曜日を変更したりと臨機応変に対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状態観察を常に行っているため傾眠があればベッド臥床して対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が誰がなんの薬を内服しているのか理解はしていない。課題になる。看護師が中心に把握はしているが介護職も知識と理解が必要。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日のレクリエーションの工夫や個々の趣味などを活かした時間、ケアが提供できるようにモニタリングして情報共有している。また月々のイベント等を開催して喜び、楽しみを提供できるように努力している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出はなかなかできていない。中庭は常に開放している。希望時は付き添いを実施している。今後暖かくなれば計画を立てる予定		

グループホームCruto

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は施設管理している。また、入居者からの預かり金はない。コロナ感染予防のため外出は控えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があればすぐ対応している。手紙やはがきも希望時は家族へ確認後記載、郵送している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとにカレンダーから今宵がわかるように作成している。また、飾り物などで季節が理解できるように工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間に関しては自由に生活ができるようにソファや椅子を設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な生活の延長として各居室にはそれぞれ持ち込んだ私物で囲まれた環境を提供している。畳の持ち込みから座椅子などレイアウトしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自由に生活ができるように支援・援助を最大限に提供している。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームCruto
作成日 令和 5年4月3日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	職員の入れ替わり時に施設理念の共有と実施が確実にできているか懸念される。	新入職者には施設理念の共有と実施が確実にできるようにする	入職時にはオリエンテーションを行い、施設理念の共有と実施ができるようになる。	適宜
2	10	コロナ感染予防のため定期的な家族との交流や情報を共有する場を設けていない。	家族と実際にお会いし、意見や要望が聞ける機会を設ける	感染症リスクレベルを考慮しながら面会の受け入れを行い、その都度ご家族と職員とが話しできる機会を設定する。	半年
3	26	コロナにより担当者会議が開催できないため、家族とのやりとりは電話連絡が中心となっている。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について本人、ご家族、職員との共有を深める。	ケアカンファレンスは引き続き毎週行い、感染症リスクレベルを考慮しながらご家族を含めた担当者会議を行なっていく。	半年
4	36	現場での接遇の問題が時折見られる。	一人ひとりの人格を尊重する意識を職員が常に持つ。	職員間での注意喚起だけでなく、外部講師を呼び、研修の機会を作る。	1年
5		共有空間で過ごす時間が退屈にならないようにより良い空間を追求する必要がある。	光、音、気温などに配慮し、四季を感じれるようなより良い居心地の良い空間づくりを追求する。	本人が穏やかに過ごせるように、光、音、気温に配慮する。中庭や壁面の作成物を活用し、四季を感じれるよう配慮する。	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。